

管理ガイド

プレミアムメスに
交配する種鶏オス



1. 育成期（0～20週齢）：設備および飼育密度に関する重要ポイント	3
2. 生産期（20～65週齢）：設備および飼育密度に関する重要ポイント	4
3. 育成期（0～20週齢）	5
育雛期を成功させるには？	5
体重目標をどのように達成・管理するか？	6
良好な鶏群均一性をどのように達成・維持するか？	7
良好な行動を促し、適切なアニマルウェルフェアを確保するには？	8
4. 生産期（20～65週齢）	9
良好な配雄期間と初期受精率を確保するには？	9
受精率の持続性を最大限に高めるには？	10
5. 管理仕様	11
中間・スローグロースのオス	11
一般ブロイラーオス（M77 & M99）	12
6. バイオセキュリティ	14

1. 育成期（0～20週齢）：設備および飼育密度に関する重要ポイント

育成を成功させる＝80%を超えるオスが、メスの成熟度に見合った良好な性成熟を達成していること。すべてのオスが、まっすぐな脚、正常な趾、適切な嘴、良好な体型および羽装を備えていること。

期間別の 目標	0-4 週齢:	良好なスタートを切り、適切なグレーディングを成功させる。
	5-10 週齢:	鶏の骨格を発達させる。
	11-15 週齢:	胸筋の発達（肉付き）をコントロールする。
	16-22 週齢:	精巣が適切に発達するよう、オスを準備する。

飼育環境（鶏舎タイプ、気候など）に応じて、鶏群管理を調整する。

→最初の2週間は自由採食とし、2週齢時の体重目標を達成していない場合は3週齢まで自由採食を継続する。給餌量を制限する前に、21日齢時点でもう一度体重を確認する。

→最初の2週間は、明期と照度を同時に短縮・低下させる。24時間照明／60 lux → 8時間照明／5～10 lux。オスとメスを同一鶏舎で育成する場合は、専用の照明プログラムを適用する。別鶏舎で育成する場合、増体が目標を下回っていれば、照度・照明時間を下げるタイミングを遅らせることが可能な場合がある。

→28日齢から、オス1羽あたり5 cmの止まり木スペース、または1,000羽あたり4 m²のプラットフォームを設け、オスがすのこへ飛び上ることを習得できるようにする。

→7日齢から、小さいヒナをグレーディングする、または少なくとも隔離する。4週齢までに実施するグレーディング後、小さいオスのペンでも8週齢時の体重目標を達成させ、8週齢頃にほぼ完了する骨格の発達を確実にする。

→採食時間を45～60分に維持する。

育成期の設備および 飼育密度	飼育密度 *	3-4 羽/m ²
	ブルダー	500羽に1基
	給水 — バル型給水器	80羽に1基
	給水 — ニップル給水器	8～10羽に1個
	給餌 — チェーンフィーダー	1羽あたり20 cm（100羽あたり10 m）
	給餌 — 丸型パン	8羽に1基
	給餌 — 楕円型パン	8～10羽に1基
	スピンフィーダー	1,000～1,200羽に1基
飼料分配時間		4分未満

* 飼育密度については、地域の法令・規制の対象となる場合があるため、常にこれらを遵守すること。

→16～22週齢では、特に飼料の種類を変更する際、およびワクチン接種後に増体が停滞しないようにする。体型を定期的に評価する。

- ▷ 鶏群の均一性を良好に保つため、飼料と飲水が鶏群全体に均等に行き渡るようにする。
- ▷ 可能な限り、オスの育成期と生産期には同じタイプの給餌器を使用する。

良好な敷料状態（乾燥しており、固まって

- ▷ いない状態）を維持する。

健康な鶏群を維持するために、適切な飼育

- ▷ 環境および空気質の要件を満たす。

毎週、鶏群の3～5%、または1ペンあたり

- ▷ 少なくとも60羽を体重測定する。

1


[Management guide
Premium Mini PS](#)


[Management guide
Redbro PS](#)


[Hubbard Poster
Feed distribution](#)


[Hubbard Bulletin
Grading](#)



2. 生産期（20～65週齢）：設備および飼育密度に関する重要ポイント

照明

→オスとメスの性成熟のバランスを良好に保つため、オスはメスより数週間早く光刺激を開始してもよい。

移動時期（20～22週齢）～27週齢

→20～27週齢では、特に飼料の種類を変更する際およびオスを混群する際に、増体が停滞しないようにする。毎週の増体率が目標値に達していることを確認する。

→良好なオス・メス間の関係を確立するためには、配雄が非常に重要である。

- ▷ 目標体重に達しており、骨格サイズが均一で、シャンクが長い良好なオスを配雄する。
(骨格の発達を最大限にするため、10週齢時の目標体重を確実に達成する。)臆病なオス、および／または性成熟が遅れているオスは、決して配雄しない。

- ▷ 交配比率は、使用するオスの品種によって異なる。オス比率が9.5%を超えると、メスの良好な羽装を維持すること、および巢外卵率を低く抑えることにリスクが生じる可能性がある。

→28週齢までの過剰な体重増加および／またはコンディション低下のリスク

- ▷ チェーンフィーダーでは、適切なグリルサイズを使用してオスがメス用給餌器にアクセスするのを制限する。プレミアムミニ：幅43～45 mm × 高さ55 mm レッドブロ：幅45 mm × 高さ60 mm より高さのあるグリルを使用する場合は、幅20～25 mmのパイプをグリル上部に追加することを検討する。また、パンフィーダーは幅・高さを最小設定に調整する。

- ▷ 飼料ラインの角部がカバーで密閉されていることを確認する。1日を通じてオスの行動を観察し、メス用飼料を盗み食いしていないか確認する。オスが依然として盗み食いしている場合は、オス用給餌器の給与量を調整する。

- ▷ 最初は少なくとも週2回、その後は毎週、飼料の分配状況を確認する。最初のメス用飼料が分配されるタイミングでオスに給餌する。



- ▷ 毎週、鶏群の3～5%、または1ペンあたり少なくとも60羽のオスを体重測定する。体型のコンディションと体重の両方に基づいて、給与量を調整する。

28週齢以降

→オスの体重増加は安定しており、「生産成績目標」のグラフに示される範囲内で推移するようにする。オスの適正なコンディションを維持するために給餌する。→「生産成績目標」を参照。

→オスの品種によっては、オスの良好なコンディションを維持するために、オス専用飼料を使用することができる。→「栄養給与推奨」を参照。

→オスの品種によっては、40～45週齢以降の受精率を維持するために、オスの入れ替えを行うことも選択肢の一つである。ただし、常にすべてのバイオセキュリティ上のリスク管理が遵守されている場合に限る。→「オスの入れ替え」技術資料を参照。

- ▷ 「鶏舎内」でのオスの入れ替え：鶏舎間でオスを移動・交換する方法。

- ▷ 外部鶏群からの入れ替え：オスは、由来および衛生状態が明確な供給元から導入する。

水

→飲水の水質を管理する。pH：5.5～6.8 酸化還元電位（ORP）：塩素使用時で600 mV超、配管末端での塩素濃度：1 ppm（許容範囲：0.5～3 ppm）

生産期の設備および飼育密度	給水 — ペル型給水器	オス80羽に1基
	給水 — ニップル給水器 流量：70～100 mL/分*	オス6～10羽に1個
	給餌 — チェーンフィーダー	オス1羽あたり20 cm（オス100羽あたり10 m）
	給餌 — 丸型パン Ø35 cm	オス8羽に1基
	給餌 — 楕円型パン	オス8～10羽に1基
	飼料配餌時間	4分未満
	照度	60-80 lux

* 一部のニップル給水システムは、種鶏向けにより低い流量で使用するよう設計されています。メーカーの推奨仕様を確認するか、Hubbardテクニカルスペシャリストに相談してください。



[Management guide](#)



[Management guide
Redbro PS](#)



[Nutrition
Recommendations](#)



[Hubbard Bulletin
Water Quality](#)



[Hubbard Bulletin
Male replacement](#)

3. 育成期（0～20週齢）：育雛期を成功させるには？

主要な管理ポイントは、当社の育雛ポスターに示されています。→ポスター「種鶏の育雛」を参照。
ヒナが鶏舎環境に入ってから最初の10日間を注意深く観察することが、育雛を成功させる鍵となります。鶏の状態に応じて、照明、飼料、飲水、設備、加温および最低換気を適切に調整してください。



ニップルの高さと給水圧を確認する。



育雛ペン内でヒナが均等に分布している状態



24時間後に、96%のヒナが素嚢が十分に満たされ、柔らかい状態になっていること。



最適なクラムブルスター飼料

→床面温度を29℃以上に保つ。

→最初の14日間は、床面積の少なくとも50%にヒナ敷紙を敷き、その上に飼料を給与する。また、飼料粉塵が蓄積しないようにする。

→初期増体を確認するため、0～35日齢の期間について毎日の増体グラフが用意されている。→該当するオス品種の「生産成績目標」を参照。

→28日齢時の体重が目標値に達していない場合は、スタータークラムブルを継続して使用する。体重が目標値に達している場合は、グロワー飼料に切り替える。

→ブルーダーを使用する場合、10日齢までに床面積全体をヒナが利用できる状態にする。

→理想的な飲水pH：5.5～6.8。最適な酸化還元電位（ORP）は、600 mV超（塩素処理時）。または、配管末端での塩素濃度1 ppm（許容範囲：0.5～3 ppm）。飲水温度：24～26℃（室温）。

重要ポイント

→7日齢から、最も小さいヒナをグレーディングするか、少なくとも隔離する。

→可能であれば、初期の飼料摂取を促すために間欠照明プログラムを使用する。例：1～7日齢では、2時間30分明期／30分暗期のサイクル。また、以下に示す推奨照明時間を必ず遵守し、1日あたり最低4回の明暗サイクルを確保する（地域の法令・規制で認められている場合）

→以下の場合には、日長時間を段階的に短縮する速度を通常より遅くすることができる。例：8時間明期への短縮を21日齢より前には行わない。

開放型鶏舎では、鶏が1日の中で気温の低い時間帯に採食できるようにする。また、過去の鶏群で得られた経験も活用する。

7日齢時点でオスの目標体重に達していない場合。



Hubbard Poster
Brooding PS

日 齢	日	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
温度	ヒーター直下	35-36				32-34			28-30							
	飼育エリア	28					27-28			25-26						
	全館暖房	31-32	30-31	29-30	28-29		26-27									
湿度	%	50-60														
設備	給水器	60羽にラウンド給水器1基、8羽にニップル1個								80羽にラウンド給水器1基、8～10羽にニップル1個						
	給餌器	50～70羽に給餌器1基 + 飼料を給与したヒナ敷紙（床面積の50%超）								チェーンフィーダー：1羽あたり6～8 cm 楕円型パンフィーダー：13～14羽に1基* 丸型パンフィーダー：12羽に1基						
飼育密度	羽/m ²	25-30				12				6-8						
照明プログラム	照明時間 (h)	24	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11-12 **	8-12 **	
	照度 *** (lux)	60								40		20		5-10		
飼 料	自由採食	最初の2週間は自由採食とする。2週齢時の目標体重に達していない場合は、3週齢まで自由採食を継続する。21日齢時に再度確認し、その後、給与量の制限を開始する。														
	飼料タイプ	ブレ・スタータークラムブルまたはミニペレット（直径2.5 mm未満）を最低14日間使用する。														

* 飼料スペースは、鶏の行動に応じて調整する。
** 7日齢時点でオスの目標体重に達していない場合。
*** 地域の法令・規制で認められている場合。

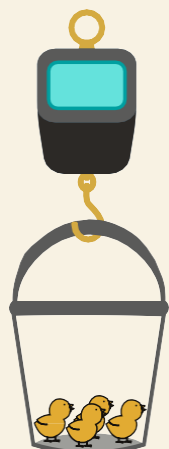
3. 育成期（0～20週齢）：体重目標をどのように達成・管理するか？

手動体重測定

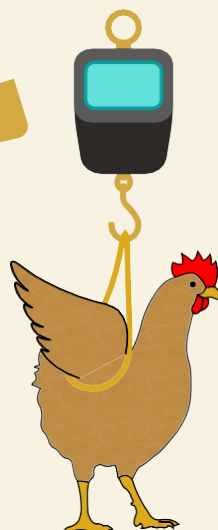


毎週、必ず同じ曜日に体重を測定する。孵化日と同じ曜日に測定するのが最も望ましい。
給餌前に測定するのが望ましい。給餌後に測定する場合は、飼料・飲水を含む体重の目標値を使用する。

2週齢未満



2週齢超

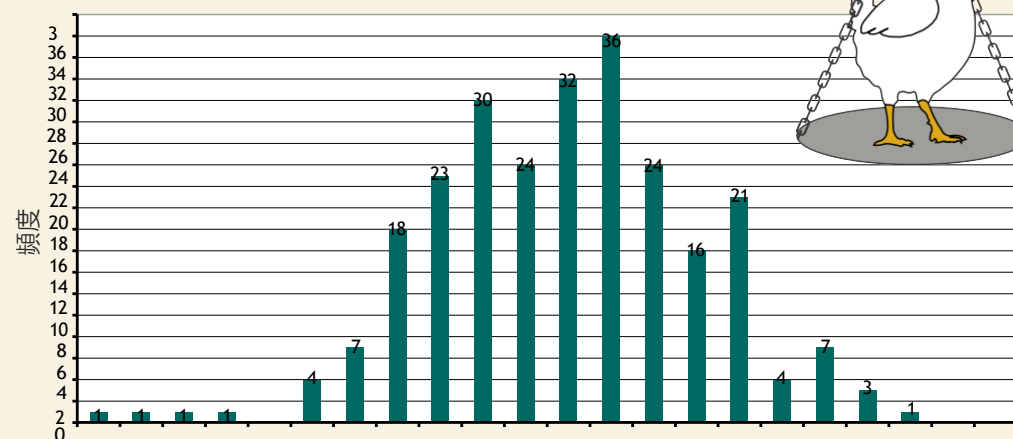


- 鶏を体重測定する前に、体重計の校正状態を確認する。
- 3か所の異なる場所からサンプルを採取する。ただし、メイン飼料ホッパーの近くは避ける。毎回、同じ場所からサンプリングする。
- サンプル数：鶏群の3～5%、または1ペンあたり最低60羽。
- 捕獲ペン内のすべての鶏を体重測定する。

自動体重測定



毎週、必ず同じ曜日に体重を測定する。孵化日と同じ曜日に測定するのが最も望ましい。
給餌前に測定するのが望ましい。給餌後に測定する場合は、飼料および飲水を含む体重の目標値を使用する。



体重区分 (g)

自動体重計による測定結果 — 良好な体重分布

- 体重測定できる鶏の数を最大限に確保するため、できるだけ早く体重計を設置する。
- ペンごとの測定羽数（1回の測定につき最低300羽）を必ず確認し、体重分布が上図のような「ベルカーブ（正規分布）」を示していることを確認する。体重の下限値および上限値は、必要に応じて調整する。
- 目標体重から予想外の乖離が見られた場合は、新たなサンプルを手取りで再測定することを推奨する。
- プラットフォーム型体重計の校正状態を毎週確認する。



週次測定結果の分析 — 最適な給与量管理のために：

- 1羽あたりの給与量は、体重測定後に算出した平均体重を基準として設定する。
- 平均体重を目標体重と比較する。平均体重を増体曲線上にプロットし、体重の推移・傾向を確認する。
- 週次増体量を算出し、該当するオス鶏種の「生産成績目標」に記載された目標値と比較する。
- 実際に達成された週次増体量と、翌週に目標とする増体量に応じて給与量を調整する。飼料摂取量の目標値はあくまで目安として設定されているため、その数値に厳密に従うのではなく、実際の飼料給与量の増加量も考慮して調整する。

3. 育成期（0～20週齢）：良好な鶏群均一性をどのように達成・維持するか？

鶏群の均一性を表す指標には、以下の2つの方法があります。

1. 鶏群の平均体重に対して $\pm 10\%$ 以内の体重範囲に入る鶏の割合（％）で均一性を表します。→ 下図を参照。
2. 変動係数（CV）は、鶏群内の体重のばらつきを示す指標で、標準偏差 ÷ 鶏群の平均体重で算出します。CV％が低いほど、鶏群の均一性が高いことを示します。

グレーディング

→7日齢：目視により、最も小さいヒナをグレーディングする、または少なくとも隔離する。4週齢までに目標体重を達成できるよう、特別に注意して管理する。

→21～28日齢：鶏群の100％をグレーディングし、体重別のグループを作る。各グループは、均一性85％以上（ $CV < 7.5$ ）とする→「グレーディング」を参照。

→29～84日齢：

飼料の分配状況を綿密に確認し、鶏群の均一性を維持または改善することを目指す。→ポスター「飼料配餌」を参照。翼の羽毛の状態が悪い場合、飼料の分配または給餌器の管理が不十分である可能性がある。



良好な配餌



グレーディング後のM77オスにおける良好な均一性

→84～98日齢：鶏群の均一性が80％未満（ $CV > 8$ ）の場合は、再度グレーディングを行い、各体重グループの均一性が85％以上（ $CV < 7.5$ ）となるようにする。ワクチン接種期間中は、体重を綿密に追跡管理する。ワクチン接種による影響を見越して、事前に飼料を増量する。

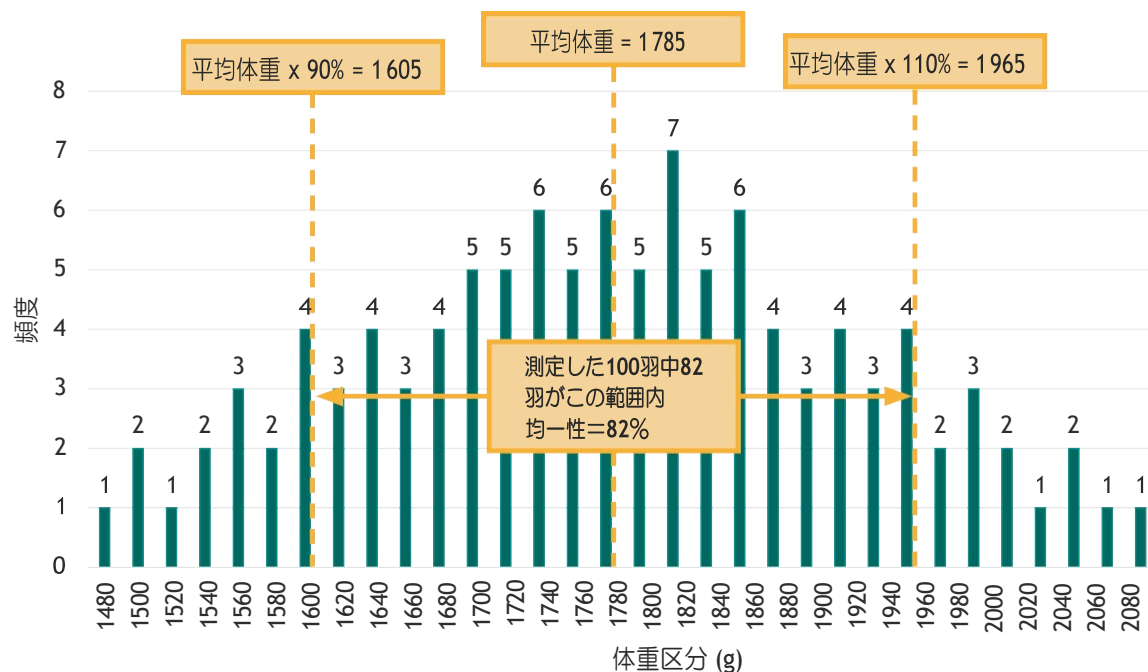
給餌プログラム

→毎日給餌することで、多くの飼育環境において良好な結果が得られている。分割給餌を検討する場合は、飼料を最適に分配するための可能な方法について、Hubbardテクニカルスペシャリストに相談する。

→給与量を変更するたびに、適切な飼料分配が行われるよう、給餌器内の飼料深さを調整する。

→低エネルギーのグロワー飼料（ $< 2,650 \text{ kcal/kg}$ ）を使用することが、腸管の健康状態および採食行動の改善に有効であり、推奨される。高繊維原料を飼料に添加する場合は、品質が安定しており、マイコトキシンを含まない原料を使用する。

→「食物繊維」技術資料を参照。



マニュアル体重測定の結果 — 均一性（％）の定義



3. 育成期（0～20週齢）：良好な行動を促し、適切なアニマルウェルフェアを確保するには？

すべてのエンリッチメントについて、バイオセキュリティを損なうリスクを考慮することが重要である。特に、わらやその他の梱包された資材、鶏舎内に持ち込む資材については注意する。また、プラットフォームなどの固定式エンリッチメントは、洗浄のしやすさも考慮する。

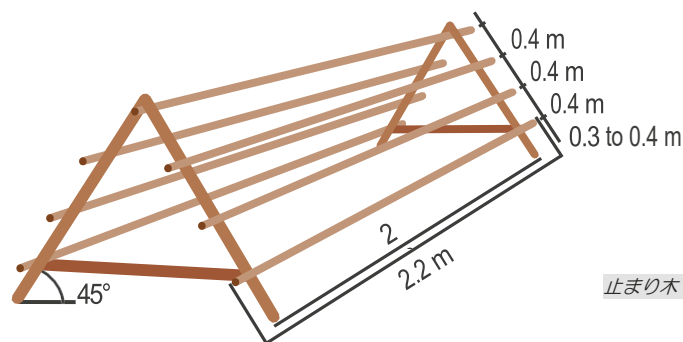
→止まり木およびプラットフォーム

28日齢から、活動性を促し、鶏がすのこへ飛び乗ることに慣れるよう、止まり木システムの使用を強く推奨する。

- ▷ 1羽あたり5 cmの止まり木スペースを確保する。
- ▷ 1,000羽あたり4 m²のプラットフォームを設置する。鶏がすのこへ飛び乗れるようになった後は、給水システムの下にプラットフォームを設置するのが最適である。
- ▷ プラットフォームおよび止まり木には、鶏を傷つける可能性のある鋭利な角がないようにする。



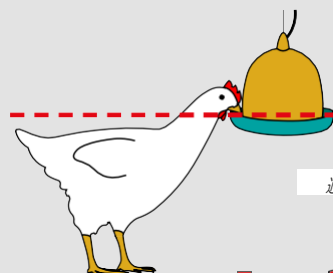
Platforms



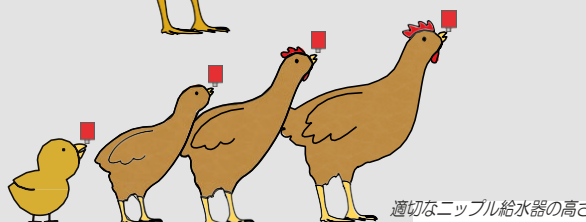
止まり木

→給水管理／飲水水質

- ▷ 鶏群の日齢に応じて、給水器の高さと給水流量を定期的かつ適切に管理すれば、飲水へのアクセスを制限する必要はない。



適切なベル型給水器の高さ



適切なニップル給水器の高さ

- ▷ 飲水の衛生管理が適切に機能していることを確認するため、飲水の化学的および細菌学的な水質を定期的に検査する。

1. 最適な飲水pH：5.5～6.8
2. 最適なORP（酸化還元電位）：塩素使用時で600 mV超
3. 配管末端での塩素濃度：目標値＝1 ppm（許容範囲：0.5～3 ppm）



→グリットおよび穀類：任意

筋胃（砂嚢）の発達を促すため、不溶性グリットを給与する。

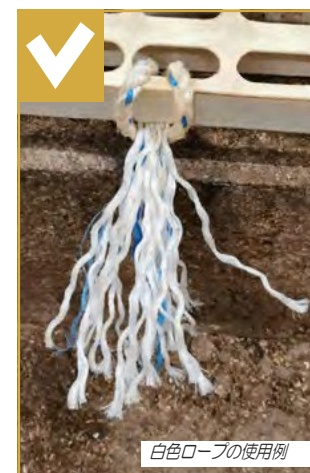
- ▷ 1. 粒径 Ø 2～3 mm：5週齢から、3～5 g/羽/週
- 2. 粒径 Ø 3～5 mm：10週齢から、3～5 g/羽/週



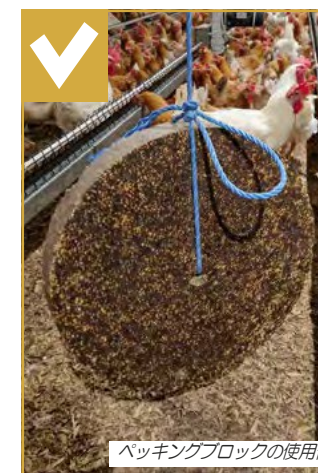
- ▷ 消毒済みの飼料用穀類（割りトウモロコシまたは全粒小麦）を、5週齢から1日3 g/羽、給餌後4～5時間に給与する。

→環境エンリッチメント（ENRICHMENT）：地域の法令・規制で義務付けられている場合を除き、任意とする。

- ▷ 白色ロープ：長さ最大20 cm。敷料に接触しないようにする。
- ▷ 木くすボール：500～1,000羽あたり1個を床面に設置する。
- ▷ ベッキングブロック：500～1,000羽あたり1個を設置する。材質の硬さを考慮する。
- ▷ アルファルファボール：500～1,000羽あたり1個を、吊り下げるか床面に設置する。



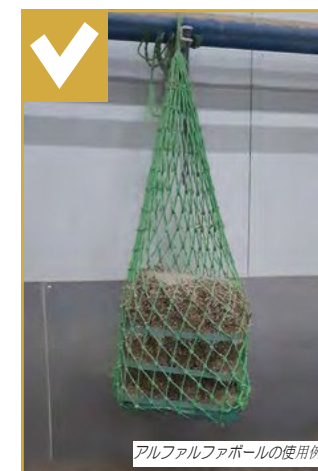
白色ロープの使用例



ベッキングブロックの使用例



ベッキングブロックの使用例



アルファルファボールの使用例

4. 生産期（20～65週齢）：良好な配雄期間と初期受精率を確保するには？

目標：32週齢で受精率のピークに到達する。

→20～27週齢は、オスの受精能力を高めるうえで重要な時期であるため、この期間に増体が停滞しないようにすることが目標である。

→良好なブロイラー種鶏オスは、以下の特徴を備えている。

- 赤色の冠および肉垂
- 良好な嘴と長い脛（シャンク）
- 良好な体型コンディション（肉付きスコア：2～3）
- 良好な脚および趾（趾の曲がりがなく、趾蹼に傷がない）
- 良好な羽装で、部分的な羽毛の脱落が見られ、総排泄腔が赤色で湿潤している

照明プログラム：オスをメスと配雄した後は、使用するプレミアムメスの照明プログラム表に従う。

→ 管理ガイド「プレミアムミニ種鶏」または「レッドブロ種鶏」を参照。

メスより先にオスを移動させる（20～22週齢）

→可能であれば、18℃に管理され、敷料が乾燥しているシステム鶏舎では、メスより3～5日前にオスを生産鶏舎へ移動させることが望ましい。これにより、オスが新しい給餌・給水システムにより適応しやすくなる。特に、育成期にスピンドリングを使用している場合に有効である。

→オスは鶏舎全体に均等に分散して配置し、ドア付近には配置しない。

→移動後の最初の数日間は、オスが給水器と給餌器を見つけて利用できているか確認する。

オスの配雄

→目標体重に達しており、骨格サイズが均一で、シャンク長が良好なオスを配雄する。

→臆病なオス、性成熟が遅れているオス、または体重不足のオスは決して配雄しない。これらのオスはメスに支配されてしまうためである。

→よりスムーズに群れへ馴染ませるため、オスの配雄は可能であれば夕方に行う。配雄後は、オスとメスの相互関係を注意深く観察する。



良好なM99オスのコンディション



良好な性成熟度

i



[Management guide
Premium Mini PS](#)



[Management guide
Redbro PS](#)

オスのコンディション／体重管理

28週齢までの期間は、過剰な体重増加および／またはコンディション低下のリスクが高い。

→毎週、1ペンあたり少なくとも60羽のオスを体重測定する。オスのコンディションと体重の両方に基づいて給与量を調整する。

→最初は少なくとも週2回、その後は毎週、飼料の分配状況を確認し、必要に応じて給与量および分配方法を修正する。すべてのオスが正常に給餌器へアクセスできていることを確認するため、飼料の分配状況を実際に立ち会って確認することが望ましい。

- 適切なグリルサイズ（プレミアムミニ：幅43～45 mm × 高さ55 mm、レッドブロ：幅45 mm × 高さ60 mm）を使用するか、パンフィーダーを適切に調整して、オスがメス用給餌器へアクセスするのを制限する。また、飼料ラインの角部がカバーで確実に密閉されていることを確認する。

オスの行動を観察し、依然としてメス用飼料を盗食している場合は、オス用給餌器の給与量を調整する。朝、最初のメス用飼料が分配されるタイミングでオスに給餌する。飼料は給餌システム全体に均一に分配される必要がある（最後のパンフィーダーのセンサーが正常に作動しているか確認する）。

- オス用給餌器は、メスがオスと一緒に飼料を食べることができない十分な高さに設置する。給与不足のリスクについても考慮する。例えば、オスの活動性が非常に高い場合にはエネルギー要求量が増加するため、給与量が不足する可能性がある。給与不足の場合、冠の色が薄くなり、活力が低下し、体型も変化する。19～25週齢の間は肉付きの進行状況を非常に注意深く確認し、オスへの過剰給与または給与不足が生じないようにする。



メス用給餌器へのオスのアクセスを制限することの重要性
黄色の円：オスがメス用給餌器の飼料を摂取できる状態



メス用給餌器におけるグリルサイズの重要性

4. 生産期（20～65週齢）：受精率の持続性を最大限に高めるには？

目標：淘汰時まで受精率を最大限に維持する。

オスのコンディション／体重管理

→毎週、オスの体重（鶏群の3～5%、または1ペンあたり少なくとも60羽）およびオスのコンディション（肉付き：胸部の形状・肉付き、趾蹼、総排泄腔）を確認することが重要である。

→消灯前の最後の2時間における交配行動を確認する。鶏舎側壁に沿って椅子に座り、少なくとも30分間観察する。詳細については、Hubbardテクニカルスペシャリストに相談する。

□ 交配試行回数を記録する。通常、1,000羽のメスに対して1時間あたり60～100回程度である。

□ 1回の交配試行後に逃げるメスの数を記録する。その数は、交配試行回数の30%を超えないことが望ましい。

最適なオス管理のための週次結果の分析

→飼料：

□ 体重が推奨目標値から外れた場合は、いつでも直ちに給与量を調整する。

□ 肉付きスコアの低下が確認された場合は、特に給与量を増やす。例えば、現在の1日給与量の150%を2～3日間給与する方法がある（13ページの例を参照）。

□ Hubbard飼料ふるいおよびHubbardソフトウェアを使用して、飼料の物理的品質を定期的に確認する。→「Hubbard飼料ふるいツール」を参照。

→交配行動を促すためにできること：

□ 40週齢以降、午後遅い時間帯にスクラッチグレインを給与する。例：1 g/羽を2～3日ごとに給与する。

□ 交配比率を調整する。品質の低いオスを定期的に淘汰する。

□ 敷料を良好な状態（乾燥しており、固まっていない状態）に維持する。

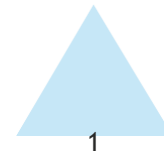


[Nutrition Recommendations](#)



[Hubbard Feed Sieve Tool](#)

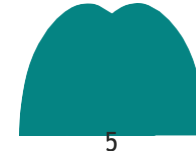
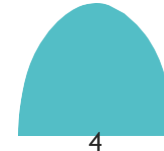
著しい肉付き不足



目標



著しい過剰な肉付き



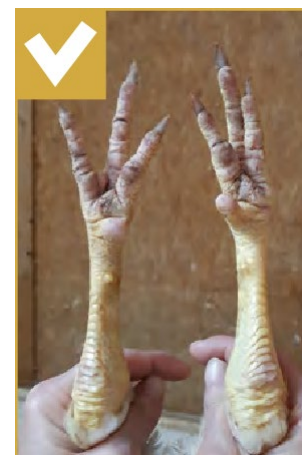
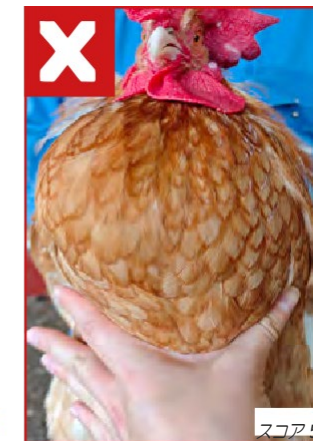
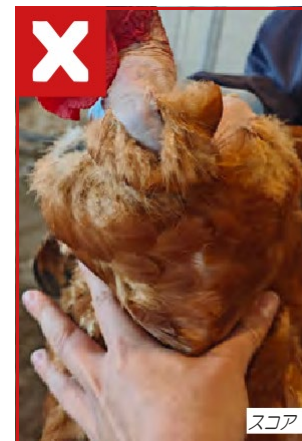
外観の良いM99オス



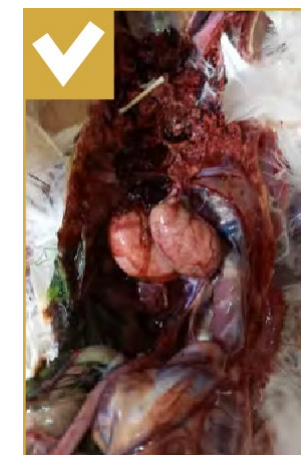
外観の良いレッドロネイキッドネックオス



外観の良いグレイバードオス



丈夫でまっすぐな脚



良好な精巣サイズ



赤色で湿潤した総排泄腔

5. 管理仕様：中間・スローグロースのオス

中間増体オス

育成期

- 育雛期間中は、ネイキッドネックオスについて、周囲温度を1℃高くすることを推奨する。
- 中速増体オスは、メスと同じ鶏舎内で育成することが可能である。ただし、同じペンには入れない。
- 照明プログラム：

- オスをメスとは別に育成する場合、4週齢から、5～10 luxで8時間明期の照明プログラムを設定することができる。

- 移動時にはオスとメスが同じ照明プログラムになるよう、照明時間を延長する。→ 表1を参照。光刺激後は、鶏群の行動を観察する。

- 照度は、地域の法令・規制で認められている場合、鶏の行動に応じて高くしたり調整したりすることができる。ただし、育成鶏舎から生産鶏舎への移動時に照度を下げてはならない。

- 白色ロープ、アルファルファボール、木くすボールなどの環境エンリッチメントを設置してもよい。

生産期

- 中速増体オスには、メール2飼料は推奨されない。

→ 配雄比率の管理：

- 毎週の体重測定時に、品質の低いオスを定期的に淘汰する。

- 表2を使用し、鶏群の日齢・週齢に応じて交配比率を調整する。

→ オスのコンディション／体重管理に特に重点を置く

- 毎週の体重測定を、オスのコンディション（肉付き：体型・胸部の肉付き、趾蹼および総排泄腔）を評価する機会として活用する。
 - オスの入れ替え：通常は必要ないが、鶏群の状態および受精成績に応じて実施することができる。

表1：照明プログラムの例	オス日齢	ケース1：メスの明期10時間	ケース2：メスの明期12時間
	オスの明期		
	112 d	8 h	8 h
	119 d	9 h	10 h
	126 d	10 h	11 h
	133日齢～移動	10 h	12 h

スローグロースオス

育成期

- 育雛期間中は、ネイキッドネックオスについて、周囲温度を1℃高くすることを推奨する。
- スローグロースのオスは、メスと同じ鶏舎内で育成することが可能である。ただし、同じペンには入れない。
- 照明プログラム：

- オスをメスとは別に育成する場合、4週齢から、5～10 luxで8時間明期の照明プログラムを設定することができる。

- 移動時にオスとメスが同じ照明プログラムになるよう、照明時間および照度を段階的に増加させる。→ 表1を参照。光刺激後は、鶏群の行動を観察する。

生産期

- スローグロースオスには、メール2飼料は推奨されない。

→ 給餌管理：

- スローグロースオスは、メス用給餌器をメスと共用することができる。

- スローグロースオスは自由採食に近い給餌となるため、給餌器が毎日空になることを確認する。

- 一部の飼育環境、例えば開放型鶏舎や寒冷な気候では、オスを良好なコンディションに維持するため、飼料摂取量が最大280 g/羽/日まで増加する場合がある。

→ 配雄比率の管理：

- 毎週の体重測定時に、品質の低いオスを定期的に淘汰する。
 - 表2を使用し、鶏群の週齢に応じて交配比率を調整する。
 - オスの入れ替え：通常は必要ない。

表2：鶏群週齢に応じた配雄比率	鶏群週齢	中間グロースオス	スローグロースオス
	20-22 週齢	最大9%	最大9%
	26 週齢	最大8.5-9%	最大8.5-9%
	30 週齢	8.5%	8.5%
	40 週齢	8%	8%
	50 週齢	8%	7.5%
	60 週齢	8%	7%



17～18週齢からの照明プログラム

→特にプレミアムミニのメスとの性成熟を適切に同期させるため、照明プログラムの調整が必要である。

→移動時にオスとメスが同じ照明プログラムになるよう、照明時間を延長する。→ 下表を参照。

→照度は、地域の法令・規制で定められている場合、鶏の行動に依じて高くしたり調整したりすることができる。ただし、育成鶏舎から生産鶏舎への移動時に照度を下げてはならない。

→白色ロープ、アルファルファボール、木くずボールなどの環境エンリッチメントを設置してもよい。

照明プログラムの例	オス 日齢	ケース1： メスの明期 10時間	ケース2：メ スの明期12 時間
		オスの明期	
	112 d	8 h	8 h
	119 d	9 h	10 h
	126 d	10 h	11 h
	133日齢 ～移動	10 h	12 h

オスのコンディション／体重管理に特に重点を置く

→毎週、オスの体重（鶏群の3～5%、または1ペンあたり少なくとも60羽）を測定する。

→体重測定を、オスのコンディション（肉付き：体型・胸部の肉付き、趾蹼および総排泄腔）を評価する機会として活用する。肉付きスコアの評価基準を、このページの右側に示している。

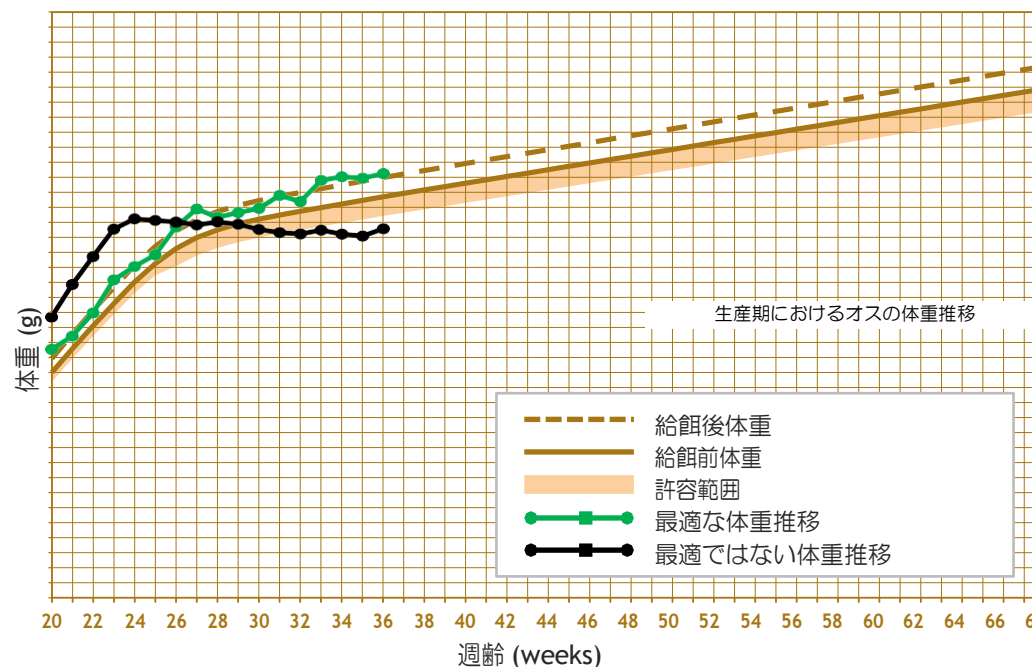
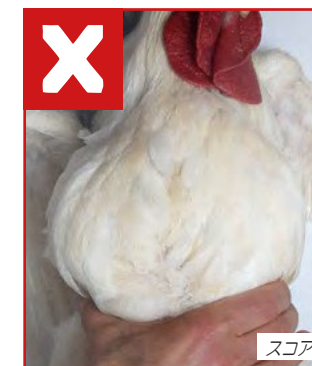
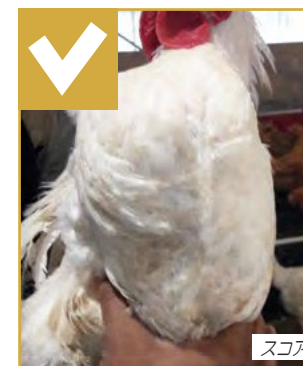


M77オスの良好な性成熟度 - 126日齢

著しい肉付き不足

目標

著しい過剰な肉付き



最適なオス管理のための週次結果の分析

→飼料:

- 20週齢から、体重を適切に管理するためにメール1飼料を使用する。
- 肉付きスコアの低下が確認された場合は、特に給与量を増やす。例えば、現在の1日給与量の150%を2〜3日間給与する。
- 30週齢以降は、メール2飼料（タンパク質含量を低くし、エネルギー含量を高めた飼料）を使用する。これにより、週ごとの増体目標を達成するとともに、過剰な肉付きのリスクを高めることなく、オスが十分なエネルギーを摂取できるようにする。→「栄養推奨」を参照。



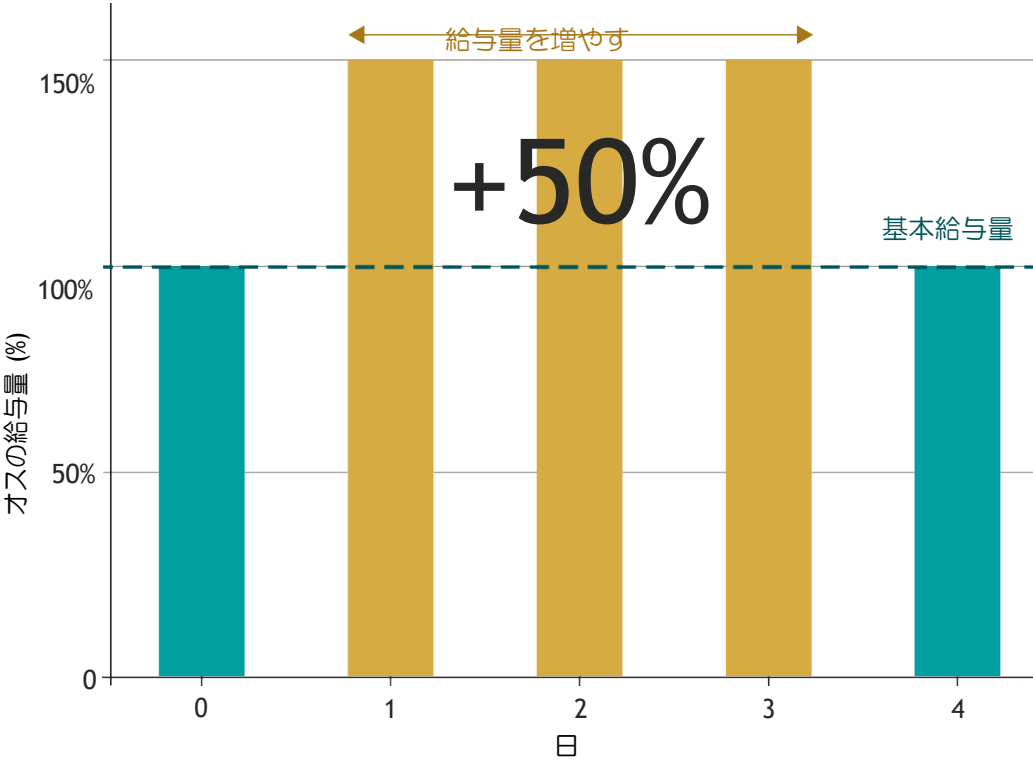
→配雄比率の管理：

- 毎週の体重測定時に、品質の低いオスを定期的に淘汰する。
- 下表を使用し、鶏群の週齢に応じて交配比率を調整する。一定の状況（趾の処置、嘴の処置など）では、移動時から交配比率を7.5〜8%程度に設定することができる。

M99およびM77オスの配雄比率	鶏群週齢	M99オスの配雄比率	M77オスの交配比率
	20-22 weeks	9.5%	9%
	26 weeks	9%	8-8.5%
	30 weeks	8.5%	8-8.5%
	40 weeks	8%	7.5-8%
	50 weeks	7.5%	7-7.5%
	60 weeks	7%	6.5-7%

→オスの入れ替え：オスの入れ替えを実施する前に、バイオセキュリティを考慮する必要がある。特に、すべての衛生上のリスクが存在する地域では注意が必要である。→技術資料「オスの入れ替え」を参照。

- 鶏舎間でのオスの入れ替えでは、外部からオスを導入する必要はない。品質の低いオスをすべて群れから取り除き、人道的に安楽死させたとうえで、同程度の体重を持つオスに入れ替える。
- 外部からのオスの入れ替えでは、25〜28週齢の若いオスを導入し、新たに導入するオスについて厳格な衛生管理を行う。
- オス鶏群全体の20〜30%を入れ替えることで、既存のオスを刺激するとともに、身体的コンディションの悪いオスを置き換える。



ブースト給餌の例

6. バイオセキュリティ

敷料管理



病原体フリーの状態を維持するため、敷料を適切なバイオセキュリティ管理区域（鶏舎内）に保管する。



飼育サイクル終了時に敷料を堆積させない。

鶏舎間の移動

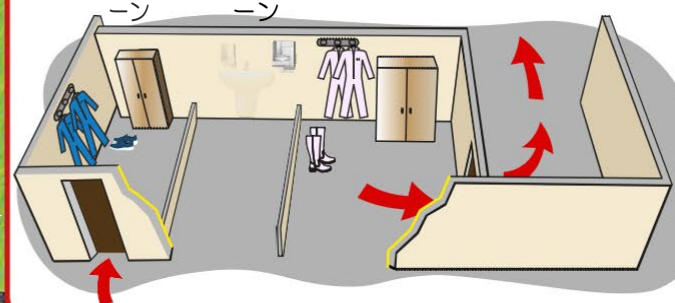


2棟の鶏舎間に通路がある場合：3ゾーン式の入場設備を設ける



鶏舎間に通路がない場合：各鶏舎にシャワーユニットを1基設置する。

通過ゾーン 更衣ゾーン 清潔ゾーン



訪問者



訪問者を制限し、適切な隔離期間を設定する。



シャワー設備を設ける。



衣類および長靴を交換できるようにする。

車両



車両は農場施設に入場する前に洗浄する。



許可されていない車両を農場内に入れない。



飼料およびガスの搬入はすべてフェンスの外側で行うようにする。



車両からシャワー設備まで移動する際は、靴の上からシューズカバーを着用する。

外周屋外



フェンス内のコンクリート面や区域を、清潔区域として扱わない。

鶏舎内部



清掃・消毒しやすいコンクリート床とする。



設備は清掃・消毒しやすい構造とする。オールアウト後の空舎期間は、理想的には少なくとも10日間確保する。



良質な飲用水を確保する。

動物管理



その他の家畜を農場施設に近づけない。

害虫・害獣管理



ネズミや昆虫に対して定期的にペイト剤を設置する。地域の規制に従い、野鳥が施設内へ侵入するのを防止する。

記録の保管



訪問者、飼料・敷料の搬入、清掃・消毒、害虫・害獣対策

* 同一鶏舎内で異なるHubbard品種を飼育できる場合があります。詳細については、最寄りのHubbardテクニカルスペシャリストにご相談ください。

1 バイオセキュアな冷凍庫で死亡鶏を保管・処理するための冷凍室

1 ガスタンク

2 燻蒸室

3 貯卵室

4 車両消毒設備

5 従業員室

→ 前進方式（一方通行の動線管理）





The performance data contained in this document was obtained from results and experience from our own research flocks and flocks of our customers. In no way does the data contained in this document constitute a warranty or guarantee of the same performance under different conditions of nutrition, density or physical or biological environment. In particular (but without limitation of foregoing) we do not grant any warranties regarding the fitness for purpose, performance, use, nature or quality of the flocks, nor any warranty regarding compliance with local legislation regarding health, welfare, or other aspects of animal production. Hubbard makes no representation as to the accuracy or completeness of the information contained in this document.



AMERICAS
HUBBARD LLC
123 Gallus Rd
PIKEVILLE, TN 37367 - U.S.A.
TEL. +1 (423) 447 6224
contact.americas@hubbardbreedersusa.com

EUROPE, MIDDLE EAST, AFRICA
HUBBARD S.A.S.
Mauguérand
22800 LE FOEIL - FRANCE
TEL. +33 2 96 79 63 70
contact.emea@hubbardbreeders.com

ASIA
HUBBARD S.A.S.
Mauguérand
22800 LE FOEIL - FRANCE
TEL. +33 2 96 79 63 70
contact.asia@hubbardbreeders.com

Hubbard is a registered trademark of Hubbard in the US and other countries.
All other brands and trademarks are the trademarks of their respective owners.

© 2026 Hubbard